

第3回「市長の秋葉区ミーティング」(区自治協議会委員)の概要 テーマ 『まちづくり全般』

- ・日時 平成20年7月28日(月)
午後2時40分～4時10分
- ・会場 秋葉区役所602会議室
- ・発言者数 4名
- ・出席者数 20名
- ・傍聴者数 3名

【発言】「区自治協議会の位置づけについて」

新潟市区自治協議会条例により、各区に自治協議会が設置され、秋葉区でも月1回のペースで会議が行われている。区自治協議会の役割等は条例に「区民等と市との協働の要となるように努めるものとする。」と書かれているが、区自治協議会での決定事項や要望事項をどのように捉え、そして議会とは違った立場での区自治協議会をどういった位置づけで考えているのかお聞かせいただきたい。また、区自治協議会の意見を反映するための環境をどう考えているのか、あわせてお聞かせいただきたい。

(市長)

秋葉区は合併市町のみで構成された区であるため、合併建設計画が進行している間中、区自治協議会には区が誕生する以前に設置していた地域審議会的な要素・役割が付いて回る事となるだろう。昨年は総合計画や区の計画といったものにご意見をいただき、反映させていただいたが、これは地域審議会的な観点から、当然のことであったと考えている。まず、こういった役割が秋葉区自治協議会にはある。

それ以外の役割とすれば、新しい区の一体感をどのように作っていくのか、新潟市の中で秋葉区がどういう特性を発揮していくべきなのか、といったことについて、区全体のまとまりを作り、リーダー的な役割を自治協議会に果たしていただきたいという部分がある。

【発言】「『区民等と市との協働の要』ということについて」

「区民等と市との協働の要」とは、どのようなことを指しているのか。具体的な事例を示していただきたい。

(市長)

分権型の政令指定都市を作るといったときに行政との協働部分を担っていた
だきたいということで97のコミ協を作っていた。このコミ協と市役所、
区社協、体育関係者などとの協働・連携を踏まえたうえで、区自治協議会から、
さらに協働を推し進めるためにどうしているかを考えていくべきかといったご意
見をいただくことが正に「協働の要」ということになっていくのではないかと
思っています。コミ協での取り組みを区全体の取り組みにするために、自治協
議会が提言していければ、前進していけるのではないかと考えています。ま
だ、土台部分が脆弱な分権型協働都市なので、この土台部分がしっかりとし
てくれば、区自治協議会の役割もおのずから明確になってくると考えてい
る。そして、今は皆さんと一緒に方向性を見出していく段階であると考えて
います。

(追加発言)

各コミ協がしっかりしないと、市長が言われるようなことは実現が難
しいと感じた。コミ協の事務局長をやっているが、今後もコミ協同士競
い合っていきたいと思う。

(市長)

コミ協さんが具体的な活動を始めることは非常に大事なことであり、
行政は活動支援を考え、そして支えさせていただくと理解していただ
きたい。

【発言】「安心・安全な社会への取り組みについて」

まず、近年、新聞やテレビ等で殺人や自殺が連日報道されているが、
命の尊厳がなくなった現状についてどのように認識し、どんな施策を考
えているのか。

2つ目は、「改革」という名の下に、競争社会が進み、何をやっても良
いという風潮になっているのではないかと憂えている。格差社会の拡大
から意欲ある善良なものまで望みを失い、非行犯罪が発生しているが、
市長のお考えをお聞かせいただきたい。

3つ目は、例年夏休み中に青少年の非行が多発しているが、特に携
帯電話で閲覧できる有害サイトに起因する犯罪などの被害防止対策をど
のようにお考えか伺いたい。

ついでであるが、自殺者の状況について新潟県は5段階で良い方から
2番目のレベルなのに対し、新潟市は最低レベルである。どのようにお
考えか。

(市長)

「安心安全な社会」は新潟市が目指す大きな目標のひとつである。現在の日本の状況は大変心配な状況である。新潟市では、全国を騒がすようなことは幸いにも、このところ起きていないが、紙一重の部分があるのだろうと認識しておく必要があると思う。そしてこれは、新潟市が犯罪のない安心安全なまちを作っていくということを、市民がまず確認し、そしてそのためにできることに少しでも取り組むという気持ちをしっかり持っていこうということであり、またある面では地域の絆を強くすることが大変重要だということである。私たちとしては、地域の絆がまだまだ残っている政令指定都市であると思っている。このような部分をもっと伸ばして、さらに充実させる必要があると感じている。

自殺に関しては、政令指定都市・新潟として心の健康づくりを含めた健康づくりに取り組んでいこうとしている中で、現在専門的な先生方と意見交換をし、どうすれば早期に「うつ病」を発見できるのかというようなことのご意見をいただいているところである。このことは、来年の施策に反映させることで間違いなく前進できると思っている。自殺の防止は新潟市にとっても大きな課題であると認識している。

「改革」の名の下に競争社会、格差社会が広がりすぎたのではないかとのご指摘だが、これは、小泉改革が最後のところで福祉や介護といったところに踏み込んで、その路線が今政策として出てきて、反発やさらなる不安を招いているのだと思っている。

小泉改革ではあまりにも大都会優先ということになりすぎていたのではないかと感じている。やはり地方が安心して暮らせる地方になっていかないと健康な日本にはならないのではないかと思う。

「格差」というものは雇用に凝縮されると思う。全国の地方で働く場がない中、介護や学校現場といったところで働き手の手当てが薄くなっていくと大変なことになっていく。そのあたりを考えていくべきと思っている。

携帯電話に関しては、電話する以外の機能をもっている携帯電話を簡単に与えてしまっているのかどうか。もう少し大人が携帯電話の機能についてしっかり認識する必要があるのではないかと思う。専門的知識のある先生の話聞いて、学校として、家庭としてどうしたらいいかを考えていただくことが非常に重要である。ほっておくと無防備のまま危ない情報が飛び交っている世界に子どもたちをさらしてしまうことになるということをきちんと認識していただきたい。

今までにない子どもたちを取り巻く環境の変化に機敏に対応できる先生方を育成し、また最終的には家庭で判断していただくことが正しいのだろうと考え

ている。一律学校側で禁止にしても本当の効果が上がらない部分もあると思うので、その辺を教育関係者と話し合いをしながら情報交換を密にしたいと思う。

(追加発言)

新潟市の均衡ある発展を要望する。旧新潟市だけでなく、周辺の合併地区にも目を配ってほしい。

(市長)

ご指摘の点は常に頭の中に留め置いておかなければならないと思っている。

【発言】「少子化問題に関連した子育て支援策について」

少子化問題などについて発言したい。現在私は地域で赤ちゃんマッサージや親子リズムなどで子育て支援のサポーターをしている。そこに集まる母親たちの悩みや要望を聞いていただきたい。

出産費用の窓口支払いについて

出産にかかる費用が高額で、40万～45万円くらい、高い人で50万円もかかっている。この費用を一時的に用意することは若い世代にとって大きな負担となっている。新潟市では代理受領制度といって、本人が窓口で支払う費用は補助額(35万円)を差し引いた自己負担分のみでよい制度があり、出産された方々は大変ありがたいと言っていた。ところが、この制度は国民健康保険加入者のみの適用で、それ以外の健康保険加入者には適用されない。政令市長として、すべての母親たちにこの「代理受領制度」が適用されるよう関係機関へ働きかけていただきたい。

妊婦健診における検査項目について

2007年度から無料妊婦健診がこれまでの2回から5回になった。このことは大変うれしいことと妊婦さんは喜んでいたが、検診に行くと今までなかった検査をされて、結局は財布から出て行くお金は同じとのこと。

今までは、経済的負担が大きく検査されてこなかったのかも知れないが、必要な検査は健診の中に含んでもらいたい。せっかくの子育て支援制度なので実感として受け止められるような制度にしてもらいたい。

また、国では妊婦健診を14回まで無料で受けるようにと言っている。新潟市でも早い時期に14回に近づけるようお願いしたい。

若い母親が働き続けることのできる環境について

子どもがいると夜勤ができないので、資格などキャリアがあっても派遣かパートしかできない。二人目の子どもを産み育てるほど生活に余裕のない状態である。また、女子保護法では妊産婦の仕事の軽減や女子の夜勤の禁止・制限、残業の制限をしていたが、規制緩和で女子の夜勤の禁止・制限、残業の制限がなくなった。そのため、無理をして働いて体調を崩す女性も増えている。これでは安心して出産や子育てができない。女子の夜勤や残業を規制するとともに、資格などキャリアを持つ働く意欲のある母親は、働き続けることのできる環境を考えてほしい。

現在人口は減り続けていて、北信越5県の中では人口減少率は新潟県がトップである。子どもが少ない、子どもが産めないという問題は社会全体で何とかしていかなければならない。行政にも若い人たちが「市も私たちを応援してくれているんだ」と実感できるようなまちづくりをしてほしいと願っている。

(市長)

まず、人口減少率が北信越で新潟県が一番大きいということと、少子化ということはイコールではない。これは、むしろ若者が首都圏などに流出しているということが問題である。この対策として子どもに地域の良さを教え込むことが大切だと思う。若者が都会に出て行きたいという気持ちは抑えられないが、出て行ってもふるさとを懐かしんで、また戻ってくるような教育が大事だと思っている。

少子化は新潟市にとって大変深刻な問題である。特殊出生率は、全国平均や県平均を下回っている状況である。北欧などのきめ細やかな施策などを参考に新潟市としての支援施策や国の支援施策がどうあるべきかを考え、国に対して要望や問題提起をしていきたい。

無料妊婦健診の回数については、2回から5回へ増やしたことで、少し前進したと考えている。今後も状況を見て考えていきたい。また、どういうメニューを選択すれば、安心して、いらぬ個人負担を軽減することができるかを勉強してモデル的なものを考えていく必要があるのではないかと思う。

地域の子育て支援グループのような市民力を生かして、若い母親に必要な情報をいち早く提供できるようなシステムをきめ細かく作っていくことが、ずっと安心して暮らせる新潟づくりのひとつのテーマだと思っている。そして国や基礎自治体の役割分担を明確にして考えていきたい。

せっかく蓄積したノウハウやスキルが出産や子育てのために、一旦やめることで活用ができなくなるということは社会的損失である。社会で女性に能力を発揮していただくことが地域の活力にもつながるということを企業との意見交換のときに伝えながら、女性が自ら持っている能力をずっと発揮できる、そして自己実現ができる社会を新潟市は目指すということをも男女共同参画の行動計画を実践するときに頭において動いていきたい。

なかなか難しく、幅広い奥の深い問題なので即効果があらわれれないと思うが、来年度あたり現在調査研究していただいているものの中間報告をいただきながら、反映できるものは反映していきたいと考えている。

(追加発言)

格差社会のときにも触れていたが、究極的には「雇用」に尽きると思う。子育て、男女共同参画の立場に立って、女性が働き続けられるような施策をうちだしていただきたいと思う。

【発言】「新潟薬科大学付近のコンビニや食堂の出店について」

薬学部は平成18年度の入学生6年制に移行した。平成23年度からは1～6年生が揃い、およそ1800名規模の大学となり、現在の大学内にある食堂などでは対応できなくなる。ところが大学付近には、コンビニや食堂がない。そういった店舗などを誘致しようにも、大学付近は市街化調整区域であることから、建物が建てられない状況である。出店したいと希望があった場合は、許可できるようにしてほしい。

せっかく大学ができて、教育環境も整ってきたというのに、不便ということで学生が集まらないのではどうしようもない。学生たちの生活環境を整えるということも大事なのではないかと思う。

(市長)

新潟薬科大学にはがんばってほしいと思っているが、農振解除の理屈は相当難しいのではないかと考えている。キャンパス周辺だけを充実させることが、果たして学生にとって魅力的に映るかどうかというと、現在の若者にはそう思わない人も多くいるのではないかとも思うし、本当にニーズがあれば、100～200メートル離れた場所は市街化区域になっているので、そこで何らかの動きがあるのではないかとも思う。また、大学構内にそういった施設を有しているところもある。いずれにしても6年制になることによって、大学側がどのように考えているかしっかり意見交換していきたいと思う。

(追加発言)

法改正によって4年制から6年制に移行するわけだが、建物自体は6年制になることを考慮して作られたものではないと思う。大学側からそういった話があった場合は、何とか対応できるような対策を考えていただきたい。

(市長)

新しく6年制になることをテーマにして、大学側としっかり情報交換・意見交換ができるようにしたい。

【発言】「『水と土の芸術祭』について」

「水と土の芸術祭」については、新潟市中心地区だけではなく、周辺の区もすべて含んだものにしてほしい。8つの区それぞれをPRし、活性化する良い機会になると思う。

(市長)

「水と土の芸術祭」は市の全域で行えるということが、一番の魅力ではないかと思っている。そして、この芸術祭では、アート作品を作り、設置することが目的ではなく、まず地域の宝物を地域の皆さんが確認し、81万市民がその情報を共有するという部分が一番大事な部分ではないかと思う。

また、この芸術祭は孤立したイベントではなく、全体を結びつけるネットワークの効果を果たし、これを第一歩として、次に地域の宝を生かしてどういうことをやるかということに関心ある市民・地域の皆さんに考えていただくということで、いろいろな可能性を秘めていると思う。

大いに効果を高めるよう、計画の熟度をあげていきたい。